

高齢者訓練用カリキュラム例

高齢者訓練用カリキュラム例

新規・成長分野等名	新製造技術関連	訓練コース名	生産マネジメントコース（生産管理）
就業が見込める職務内容	生産・工程管理 品質管理	高齢者就業・能力開発のモデルパターン	<生産支援> 生産支援管理タイプ
訓練対象者	生産計画の流れと概要、生産計画・工程管理資料の作成などの実務に携わっていた経験があり、生産計画実務や生産統制管理実務などの基礎的知識と技能を有している者。		
コース目標	加工・組立システムの品質管理、コストダウン手法、コンピュータによる生産手配・生産実績管理ができる。		
	ユニット名	訓練時間（時間）	
コース内容	1．加工・組立システムの生産管理	1 8	
	2．作業管理とその改善	1 8	
	3．資材・外注管理	1 8	
	4．原価管理とその改善	1 8	
	5．品質管理	1 8	
	6．生産管理総合演習	1 8	
	合計	1 0 8時間	
使用する機械器具等	高輝度液晶プロジェクター、マイクシステム		
指導上の留意事項（受講生への配慮等）	チャート類を別途資料として配布 受講生間のディスカッションを重視したケーススタディ中心の訓練 適宜、補講時間や自学自習を設ける		

ユニット(案)

ユニット	加工・組立システムの生産管理	自己 評価	指導員 確認
到達水準	(1) 生産現場における管理の進め方を理解していること		
	(2) 工程管理とその進め方を理解していること		
	(3) 生産管理と現場改善を理解していること		
	(4) 生産管理の現状と今後の課題を理解していること		
	(5)		
	(6)		
教科の細目	内 容	訓練時間	
生産現場における 管理の進め方	(1) 企業を取り巻く経営環境 (2) 生産管理の諸機能	18	
工程管理とその進 め方	(1) 生産計画の機能とその内容 ・手順計画 ・工数計画 ・負荷計画 ・日程計画 (2) 生産統制の機能とその内容 ・進捗管理 ・現品管理 ・余力管理		
生産管理と現場改 善	(1) 現場改善の進め方 (2) 工程管理の量・納期管理 (3) 問題解決の進め方		
備 考			

自己評価欄にはA、B、Cを記入する。

ユニット(案)

ユニット	作業管理とその改善	自己 評価	指導員 確認
到達水準	(1) 作業管理を理解していること		
	(2) 作業管理の標準化を理解していること		
	(3) 作業改善の進め方を理解していること		
	(4) 改善事例について理解していること		
	(5)		
	(6)		
教科の細目	内 容	訓練時間	
作業管理	(1) 作業管理とは (2) 工程分析 (3) 動作分析 (4) 稼働分析 (5) 標準時間	18	
作業の標準化	(1) 工程の分析 (2) 設備配置 (3) 作業方法と作業時間の標準化		
作業改善の進め方	(1) 改善活動の基本 (2) チームの意欲付け (3) 製品製造における問題点の発見 (4) 着手の優先付けと改善の定着		
改善事例	(1) 事例演習		
備考			

自己評価欄にはA、B、Cを記入する。

ユニット(案)

ユニット	原価管理とその改善	分類番号	自己 評価	指導員 確認
到達水準	(1) 原価管理の体系を理解していること			
	(2) 原価軽減活動を理解していること			
	(3) コストダウンの手法を理解していること			
	(4)			
	(5)			
	(6)			
教科の細目	内 容		訓練時間	
原価管理の体系	(1) 製造原価の構成要素 (2) 原価の構成と原価計算の分類 (3) 実際原価計算 (4) 標準原価計算 (5) 原価差異分析		18	
原価軽減活動	(1) コストダウンの必要性と重要性 (2) 原価のしくみとコストダウンの実施及び展開方法			
コストダウンの手法	(1) 原価要素別の低減手法 (2) VA、VE、標準化 (3) 省力化、機械化、FMS、ロボット化などの生産技術との関連 (4) 段取り時間の短縮 (5) 設備レイアウト改善、予防保全との関連 (6) 5Sなどの安全管理と目で見える管理との関連 (7) 納期短縮への取組み (8) 検査体制との関連			
備 考				

自己評価欄にはA、B、Cを記入する。

ユニット(案)

ユニット	品質管理	分類番号	自己評価	指導員確認
到達水準	(1) 品質管理概論を理解していること			
	(2) 統計的品質管理を理解していること			
	(3) 管理図を理解していること			
	(4) 総合演習の内容を理解していること			
	(5)			
	(6)			
教科の細目	内 容		訓練時間	
品質管理とは	(1) SQC と TQC (2) TQC から TQM へ (3) 「質」的経営へのアプローチ		18	
統計的品質管理	(1) 統計的品質管理とは (2) 管理と改善 (3) QC 7 つ道具とその概要 (4) 課題演習			
管理図	(1) 管理図の作成方法 — (2) X-R 管理図による工程の管理 (3) その他の管理図 (4) 管理図の書き方			
総合演習	(1) 管理図の課題演習 (2) 問題解決のための QC7 つ道具と管理図 (3) 使用上の注意点と留意点 (4) 総合演習			
備考				

自己評価欄にはA、B、Cを記入する。

ユニット(案)

ユニット	生産管理総合演習	分類番号	自己 評価	指導員 確認
到達水準	(1) 生産管理の実務演習 を理解していること			
	(2) 生産管理の事例紹介 を理解していること			
	(3)			
	(4)			
	(5)			
	(6)			
教科の細目	内 容		訓練時間	
生産管理の実務演習	(1) 事例演習 (2) グループディスカッション (3) 問題点の抽出と対策の立案 (4) グループによる発表 (5) 講師による講評		18	
生産管理の事例紹介	(1) 生産管理の事例の紹介 (2) 事例の比較とその検討 (3) 今後の方向性について			
備 考				

自己評価欄にはA、B、Cを記入する。

高齢者訓練用カリキュラム例

新規・成長分野等名	新製造技術関連	訓練コース名	生産マネジメントコース（生産管理）
就業が見込める職務内容	生産・工程管理 品質管理	高齢者就業・能力開発のモデルパターン	<生産支援> 生産支援管理タイプ
訓練対象者	加工・組立システムの生産管理、品質管理、コストダウンなど実践的な生産管理業務に関する基礎的知識と技能を有している者。あるいは、生産管理を受講済みの者。		
コース目標	加工・組立システムの生産管理、品質管理、設備管理など生産管理 に対してより進んだ知識や技能を身につけ、さらに、コンピュータによる生産管理について理解ができる。		
		ユニット名	訓練時間（時間）
コース内容	1．加工・組立システムの生産管理 2．品質管理 3．設備管理 4．生産の経済性分析 5．コンピュータによる生産管理 6．生産管理総合演習		1 8 1 8 1 2 1 2 3 0 1 8
		合計	1 0 8時間
使用する機械器具等	高輝度液晶プロジェクター、マイクシステム、C A Iシステム		
指導上の留意事項（受講生への配慮等）	チャート類を別途資料として配布 受講生間のディスカッションを重視したケーススタディ中心の訓練 適宜、補講時間（コンピュータソフト操作含む）や自学自習を設ける		

ユニット(案)

ユニット	加工・組立システムの生産管理	自己 評価	指導員 確認
到達水準	(1) 生産管理の現状と課題を理解していること		
	(2) 生産の計画と運用を理解していること		
	(3) 生産の管理方式を理解していること		
	(4) 自動化と標準化を理解していること		
	(5) 問題解決の進め方を理解していること		
	(6)		
教科の細目	内 容	訓練時間	
生産管理の現状と課題	(1) 生産システムと生産管理 (2) コンカレントエンジニアリング (3) 生産のグローバル化 (4) スピードの概念	18	
生産の計画と運用	(1) 生産形態の違い (2) ジャストインタイムの考え方 (3) 能力と負荷 (4) スケジューリング		
生産の管理方式	(1) トヨタ生産方式 (2) MRPシステム		
自動化と標準化	(1) FA / CIMと標準化への対応 (2) 自動化における機器 (3) 生産情報とCIM (4) 標準化の進め方		
問題解決の進め方	(1) 問題の発見 (2) 原因追究 (3) 改善案の検討と意思決定 (4) 問題解決事例		
備 考			

自己評価欄にはA、B、Cを記入する。

ユニット(案)

ユニット	品質管理	分類番号	自己評価	指導員確認
到達水準	(1) 品質管理の発展過程を理解していること			
	(2) 全社的品質管理の導入と推進を理解していること			
	(3) 社内標準化を理解していること			
	(4) 品質保証活動を理解していること			
	(5)			
	(6)			
教科の細目	内 容		訓練時間	
品質管理の発展過程	(1) 全社的品質管理の意義 (2) TQC から TQM への発展 (3) ISO9000 の意義 (4) 「質」的経営へのアプローチ		18	
全社的品質管理の導入と推進	(1) 全社的品質管理の導入と推進 (2) 統計的な手法の活用			
社内標準化	(1) 社内標準化の意義とねらい (2) 社内標準化の進め方 (3) JIS、ISO 規格など			
品質保証活動	(1) 品質保証の意義 (2) 品質保証の体系 (3) クレームとその対処 (4) 製造物責任と製品安全			
備 考				

自己評価欄にはA、B、Cを記入する。

ユニット(案)

ユニット	設備管理	分類番号	自己評価	指導員確認
到達水準	(1) 設備管理を理解していること			
	(2) 設備保全の役割を理解していること			
	(3) 設備保全の進め方を理解していること			
	(4) 履歴管理と保全予定管理を理解していること			
	(5)			
	(6)			
教科の細目	内 容		訓練時間	
設備管理とは	(1) 設備管理の意義と目的 (2) 計画・設計段階の設備管理 (3) 設置・運転・保全段階の設備管理		12	
設備保全の役割	(1) 設備保全の役割 (2) 保全計画 (3) 事後保全と予防保全			
設備保全の進め方	(1) 日常保全活動 (2) 設備検査の進め方 (3) 劣化と故障の修理 (4) 演習			
履歴管理と保全予定管理	(1) 設備履歴の記録 (2) データベースの整備 (3) 保全作業予定の管理 (4) 適用事例			
備 考				

自己評価欄にはA、B、Cを記入する。

ユニット(案)

ユニット	生産の経済性	自己 評価	指導員 確認
到達水準	(1) 意思決定と経済性分析を理解していること		
	(2) 比較の原則を理解していること		
	(3) 原価改善と経済性計算を理解していること		
	(4) 条件に応じた判断指標の概要を理解していること		
	(5)		
	(6)		
教科の細目	内 容	訓練時間	
意思決定と経済性 分析	(1) 意思決定のプロセス (2) 問題点の識別と代替案	12	
比較の原則	(1) 割勘計算と損得計算 (2) 平均費用の注意点 (3) 優劣分岐分析と可変費用 (4) 受注選択と利益分析 (5) 手余り状態と手不足状態		
原価改善と経済性 計算	(1) 赤字製品と黒字製品 (2) 失敗のコストのとらえ方 (3) 改善活動の経済性評価 (4) コスト低減と生産性 (5) 計算演習		
条件に応じた判断 指標	(1) 独立案とは (2) 排反案とは		
備 考			

自己評価欄にはA、B、Cを記入する。

ユニット(案)

ユニット	コンピュータによる生産管理	分類番号	自己評価	指導員確認
到達水準	(1) 情報リテラシーについて理解していること			
	(2) コンピュータによる生産管理を理解していること			
	(3) 技術情報管理を理解していること			
	(4) 生産計画と資材発注管理を理解していること			
	(5) 現場管理と在庫管理を理解していること			
	(6) 演習課題を理解していること			
教科の細目	内 容		訓練時間	
情報リテラシー	(1) 生産管理と情報システム (2) 生産管理情報システムの最近の動向		30	
コンピュータによる生産管理	(1) 生産管理情報システムとは (2) LAN、POP、バーコード			
技術情報管理	(1) 部品表の概念 (2) 構成部品表			
生産計画と資材発注管理	(1) 能力負荷計画 (2) 生産計画とスケジューリング (3) 資材所要量計画 (4) 発注・購買管理			
現場管理と在庫管理	(1) 作業指示と実績管理 (2) 発注点法と定期発注方式 (3) ABC 管理			
演習課題	(1) データ入力演習 (2) 生産管理システムを取り巻くその他の業務システム			
備 考				

自己評価欄にはA、B、Cを記入する。

ユニット(案)

ユニット	生産管理総合演習	分類番号	自己 評価	指導員 確認
到達水準	(1) 生産管理の実務演習 を理解していること			
	(2) 生産管理の事例紹介 を理解していること			
	(3)			
	(4)			
	(5)			
	(6)			
教科の細目	内 容		訓練時間	
生産管理の実務演習	(1) 事例演習 (2) グループディスカッション (3) 問題点の抽出と対策の立案 (4) グループによる発表 (5) 講師による講評		18	
生産管理の事例紹介	(1) 先進事例の紹介 (2) 事例の比較とその検討 (3) 今後の方向性について			
備 考				

自己評価欄にはA、B、Cを記入する。

高齢者訓練用カリキュラム例

新規・成長分野等名	流通・物流、新製造技術関連	訓練コース名	物流システムコース（物流管理）
就業が見込める職務内容	物流管理 在庫管理	高齢者就業・能力開発のモデルパターン	<生産支援> 生産支援管理タイプ <生産現業> 軽労働タイプ
訓練対象者	在庫・物流管理などの実務に携わっていた経験があり、それらの基礎的知識を有している者。		
コース目標	物流管理に関する基礎的知識と技能を身につけ、実践的な物流管理業務が遂行できる。		
	ユニット名	訓練時間（時間）	
コース内容	1．物流管理	1 8	
	2．物流管理手法	2 4	
	3．物流コストと改善のアプローチ	1 8	
	4．物流サービス概論	1 2	
	5．物流業務概論	1 8	
	6．物流総合演習	1 8	
	合計	1 0 8時間	
使用する機械器具等	高輝度液晶プロジェクター、マイクシステム		
備考	チャート類を別途資料として配布 受講生間のディスカッションを重視したケーススタディ中心の訓練 適宜、補講時間や自学自習を設ける		

ユニット(案)

ユニット	物流管理	分類番号	自己評価	指導員確認
到達水準	(1) 物流管理概論を理解していること			
	(2) 物流システムを理解していること			
	(3) 物流と経営を理解していること			
	(4) 物流管理の基礎知識を理解していること			
	(5)			
	(6)			
教科の細目	内 容		訓練時間	
物流管理概論	(1) 物流の基本概念 (1) ロジスティクスとは (1) 物流管理の基礎知識 (2) 環境の問題と物流		18	
物流システム	(2) 企業内の物流システム (2) 企業間における物流システム (2) 貿易と国際物流 (2) インフラとしての物流システム			
物流と経営	(2) 物流システムの組織 (2) 物流と経営 (2) 物流と安全管理 (2) 物流行政の動向と物流管理			
物流管理の基礎知識	(2) 輸送・保管・包装・荷役・流通加工・物流情報 (2) トラック・鉄道・海運・航空と複合一貫輸送 (1) 倉庫管理と物流センター (2) 包装の役割と機能 (3) 荷役業務と庫内設備			
備考				

自己評価欄にはA、B、Cを記入

ユニット(案)

ユニット	物流管理手法	分類番号	自己評価	指導員確認
到達水準	(1) 在庫管理手法を理解していること			
	(2) 需要予測と拠点計画を理解していること			
	(3) 問題解決と改善手法を理解していること			
	(4)			
	(5)			
	(6)			
教科の細目	内 容		訓練時間	
在庫管理手法	(1) 在庫管理の目的 (2) 在庫管理手法 (3) 在庫削減の方策 (4) 計算演習		18	
需要予測と拠点計画	(1) 物流拠点計画 (2) 需要予測 (3) 需要予測の手法 (4) 立地選定事例の検討 (5) 総合的計画			
問題解決と改善手法	(1) 問題発見と問題解決の手順 (2) 物流の最適化技法 (3) 業務の効率化 (4) I E、O R、Q C、V Eの利用 (5) 事例の検討			
備 考				

自己評価欄にはA、B、Cを記入する。

ユニット(案)

ユニット	物流コストと改善のアプローチ	分類番号	自己評価	指導員確認
到達水準	(1) 物流コストの把握とその考え方を理解していること			
	(2) 物流コストの改善について理解していること			
	(3) 物流コスト改善の進め方について理解していること			
	(4)			
	(5)			
	(6)			
教科の細目	内 容		訓練時間	
物流コストの把握とその考え方	(1) 物流コストの把握の目的 (2) 物流実態データの把握方法 (3) 物流コストとサービスのトレードオフ		18	
物流コストの改善				
物流コスト改善の進め方				
備 考				

自己評価欄にはA、B、Cを記入する。

ユニット(案)

ユニット	物流サービス概論	分類番号	自己評価	指導員確認
到達水準	(1) 物流サービス管理を理解していること			
	(2) 物流サービスと顧客管理を理解していること			
	(3) 物流サービスの向上を理解していること			
	(4)			
	(5)			
	(6)			
教科の細目	内 容		訓練時間	
物流サービス管理	(1) 物流サービスの概念 (2) 取引条件と顧客へのサービス (3) 顧客ニーズ (4) 物流サービスの向上		12	
物流サービスと顧客管理	(1) 顧客満足度の考え方 (2) サービスの質とその内容 (3) 顧客セグメントと物流サービス (4) 物流コストと物流サービス			
物流サービスの向上	(1) 物流の品質管理 (2) 価値分析とIE (3) 物流サービス向上のための業務改善 (4) 事例検討			
備 考				

自己評価欄にはA、B、Cを記入する。

ユニット(案)

ユニット	物流業務概論	分類番号	自己 評価	指導員 確認
到達水準	(1) 荷役業務とマテリアルハンドリングを理解していること			
	(2) 保管業務とその設計を理解していること			
	(3) 包装業務を理解していること			
	(4)			
	(5)			
	(6)			
教科の細目	内 容		訓練時間	
荷役業務とマテリアルハンドリング	(1) 荷役業務の役割とその内容 (2) 荷役業務の安全対策 (3) 荷役業務の省力化・無人化 (4) マテリアルハンドリング (5) 各種自動化機器と物流システム		18	
保管業務とその設計	(1) 保管の概念と役割 (2) 倉庫管理 (3) 保管作業の省力化・無人化 (4) オペレーション管理 (5) 保管のためのシステム設計			
包装業務	(1) 物流における包装の考え方 (2) 包装の適正化と標準化への取り組み (3) 包装材料とその種類 (4) 包装の技法と作業の合理化			
備 考				

自己評価欄にはA、B、Cを記入する。

ユニット(案)

ユニット	物流管理総合演習	分類番号	自己 評価	指導員 確認
到達水準	(1) 物流管理の実務演習 について理解していること			
	(2) 物流管理の事例 について理解していること			
	(3)			
	(4)			
	(5)			
	(6)			
教科の細目	内 容		訓練時間	
物流管理の実務演習	(1) 事例演習 (2) グループディスカッション (3) 問題点の抽出と対策の立案 (4) グループによる発表 (5) 講師の講評		18	
物流管理の事例紹介	(1) 物流管理事例の紹介 (2) 事例の比較とその検討 (3) 今後の方向性について			
備 考				

自己評価欄にはA、B、Cを記入する。

高齢者訓練用カリキュラム例

新規・成長分野等名	流通・物流、新製造技術関連	訓練コース名	物流システムコース（物流管理）
就業が見込める職務内容	物流管理 在庫管理	高齢者就業・能力開発のモデルパターン	<生産支援> 生産支援管理タイプ <生産現業> 軽労働タイプ
訓練対象者	物流・在庫管理などの実務に携わっていた経験があり、それらの基礎的知識と技能を有している者		
コース目標	物流管理における業務システム全般に関する知識、技能を身につけ、さらに物流情報システム、ロジスティクスの概念を説明することができる。		
	ユニット名	訓練時間（時間）	
コース内容	1．物流管理	1 8	
	2．輸配送システム	1 8	
	3．物流センターシステム	1 2	
	4．ロジスティクス	1 8	
	5．物流情報システム	2 4	
	6．物流総合演習	1 8	
	合計	1 0 8時間	
使用する機械器具等	高輝度液晶プロジェクター、マイクシステム		
備考	チャート類を別途資料として配布 受講生間のディスカッションを重視したケーススタディ中心の訓練 適宜、補講時間や自学自習を設ける		

ユニット(案)

ユニット	物流管理	分類番号	自己 評価	指導員 確認
到達水準	(1) 物流管理 を理解していること			
	(2) 物流と経営を理解していること			
	(3) 物流管理を取り巻く諸問題を理解していること			
	(4)			
	(5)			
	(6)			
教科の細目	内 容		訓練時間	
物流管理	(1) 物流インフラの現状 (2) 輸配送システムと物流センターシステム (3) 物流とロジスティクス (4) 物流情報システムの役割		18	
物流と経営	(1) 物流と経営の考え方 (2) 物流の長期計画 (3) 製配販同盟 (4) ロジスティクス戦略			
物流管理を取り巻く課題	(1) 物流の共同化 (2) 物流の合理化と輸送システム (3) 我が国の物流行政の動向 (4) 物流と環境問題			
備 考				

自己評価欄にはA、B、Cを記入

ユニット(案)

ユニット	輸配送システム	分類番号	自己評価	指導員確認
到達水準	(1) 輸配送の基礎知識を理解していること			
	(2) 輸送の概念とその役割を理解していること			
	(3) 配送計画とその管理を理解していること			
	(4) 国際輸送に関する知識を理解していること			
	(5)			
	(6)			
教科の細目	内 容		訓練時間	
輸配送の基礎知識	(1) 物流における輸送の基礎知識 (2) 配送システムの基礎知識		18	
輸送の概念とその役割	(1) 輸送機関と輸送ルート (2) 複合一貫輸送 (3) 運送保険 (4) コンテナとパレチゼーション			
配送計画とその管理	(1) 配送計画と運行管理 (2) 配送ルートの計画 (3) 共同配送計画 (4) 特殊配送計画			
国際輸送に関する知識	(1) 国際輸送とそのしくみ (2) 条約と規定 (3) 保険とリスクマネジメント (4) 国際輸送の手続き			
備 考				

自己評価欄にはA、B、Cを記入する。

ユニット(案)

ユニット	物流センターシステム	分類番号	自己評価	指導員確認
到達水準	(1) 物流センター業務とその改善を理解していること			
	(2) 庫内作業の管理と改善を理解していること			
	(3) 商品管理と在庫政策を理解していること			
	(4) センター設備の管理を理解していること			
	(5)			
	(6)			
教科の細目	内 容		訓練時間	
物流センター業務とその改善	(1) 物流業務を取り巻く現状 (2) 物流センターにおけるトータルコスト (3) 物流センターの省力化と自動化		12	
庫内作業の管理と改善	(1) 庫内作業の管理 (2) 庫内業務の分析と改善 (3) 入庫・在庫・出庫業務の分析 (4) 受注と出荷との関係			
商品管理と在庫政策	(1) 商品管理 (2) 在庫管理と在庫政策 (3) 在庫管理手法の適用			
センター設備の管理	(1) マテハン機器の管理 (2) 物流情報システムの管理 (3) システムや設備の改善 (4) 関連法規			
備 考				

自己評価欄にはA、B、Cを記入する。

ユニット(案)

ユニット	ロジスティクス	分類番号	自己評価	指導員確認
到達水準	(1) ロジスティクスの発展を理解していること			
	(2) ロジスティクスの考え方を理解していること			
	(3) ロジスティクスの構成を理解していること			
	(4)			
	(5)			
	(6)			
教科の細目	内 容		訓練時間	
ロジスティクスへの発展	(1) 物流からロジスティクスへ (2) ロジスティクスとは (1) ロジスティクスの意義		18	
ロジスティクスの考え方	(1) 物流費の効率化 (2) ロジスティクスの戦略性 (3) サプライチェーンロジスティクス (4) 生産管理とロジスティクス			
ロジスティクスの構成	(1) 顧客満足的重要性 (2) サービスとサービスのパッケージ (3) 品質とサービス (4) ノードとリンク (5) ロジスティクスの管理組織			
備 考				

自己評価欄にはA、B、Cを記入する。

ユニット(案)

ユニット	物流情報システム	分類番号	自己評価	指導員確認
到達水準	(1) 物流情報処理と伝達の手段を理解していること			
	(2) 物流マネジメントにおける情報の役割を理解していること			
	(3) 物流情報システムについてその概要を理解していること			
	(4)			
	(5)			
	(6)			
教科の細目	内 容		訓練時間	
物流情報処理と伝達の手段	(1) バーコードシステム (2) バーコードリーダー (3) EDI (4) 物流情報システムの概要		18	
物流マネジメントにおける情報の役割	(1) 商物分離の概念 (3) 商物分離のメリット (4) ロジスティクスネットワークと在庫配分 (5) VAN			
物流情報システム演習	(1) 入荷・入庫システム (2) 在庫管理システム (4) 出庫・出荷システム (5) 配送スケジュール管理システム			
備 考				

自己評価欄にはA、B、Cを記入する。

ユニット(案)

ユニット	物流管理総合演習	分類番号	自己 評価	指導員 確認
到達水準	(1) 物流管理の実務演習 について理解していること			
	(2) 物流管理の事例 について理解していること			
	(3)			
	(4)			
	(5)			
	(6)			
教科の細目	内 容		訓練時間	
物流管理の実務演習	(1) 事例演習 (2) グループディスカッション (3) 問題点の抽出と対策の立案 (4) グループによる発表 (5) 講師の講評		24	
物流管理の事例紹介	(1) 先進事例の紹介 (2) 事例の比較とその検討 (3) 今後の方向性について			
備 考				

自己評価欄にはA、B、Cを記入する。